

PC-Transer 翻訳スタジオ 2007 の機能概要

PC-Transer がインターフェースを大幅に変更し、「翻訳スタジオ」として登場してから 3 度目のバージョンアップ版「PC-Transer 翻訳スタジオ 2007」が 2006 年 10 月 6 日に発売されました。ほぼ毎年バージョンアップしている PC-Transer としてはバージョン 14 になります。筆者が PC-Transer を使い始めたのはバージョン 5 からですが、実のところ機能の点では PC-Transer V11 が最も充実していると言えます。翻訳スタジオでは一般的にあまり使われない機能を外し、その代わりにインターフェースを強化しています。ただ、翻訳スタジオの最初のバージョンでは便利な機能まで外してしまったという印象がぬぐえませんでした。また、辞書の連携などの面でも改良の余地がだいぶ残されていました。

今度の PC-Transer 翻訳スタジオ 2007 では、一度外した便利な機能を復活させています。さらに細かい改良が加えられてずいぶん使い勝手がよくなりました。

まだ、PC-Transer V11 を使っているヘビー・ユーザーも翻訳スタジオ 2007 なら納得するのではないかと思います。

■機能概要

PC-Transer 翻訳スタジオ 2007 にはどのような機能があるのかざっと見てみましょう。

■●翻訳エンジン

翻訳ソフトで最も重要なのはもちろん翻訳エンジンです。

「構文トランスファー＋意味マッチングによる高速・高精度 英日・日英翻訳エンジン」となっていますが、一口で言うと、構文解析を行う従来の方式に加えて、辞書に付加された意味情報を手がかりに、より相応しい訳語を出力する方式だということです。

とはいっても、こればかりは実際に訳文を出力させて見るしかないでしょう。

■●辞書

基本語辞書：英日：1,050,000 語 / 日英：1,240,000 語

日外アソシエーツ 180 万語科学技術辞書：英日：900,000 / 日英：900,000

これだけの膨大な辞書に加えて、

スタンダード版には 7 分野の専門語辞書：英日：320,000 語 / 日英：330,000 語

プロフェッショナル版には 27 分野の専門語辞書：英日：1,212,000 語 / 日英：1,319,000 語

が搭載されています。

因みに、最近の翻訳ソフトは以前に比べて翻訳成功率がかなり高まっていますが、この驚くべき辞書の開発がその理由の 1 つになっています。

■●対訳エディタ

翻訳ソフトを翻訳作業に活用するには「対訳エディタ」の使い勝手が最も重要です。使い勝手が悪く、ストレスを感じるようでは誰も使わないでしょう。その点 PC-Transer の対訳エディタは従来から極めて使いやすく、翻訳スタジオ 2007 になっても使いやすさはそのまま受け継がれています。さらに新バージョンでは、訳語、辞書、翻訳メモリの各ペインと連携し、翻訳ソフトとして

の総合力を高めています。

■●翻訳スタイル登録

翻訳設定をカスタマイズした場合、その設定情報を登録しておく機能は以前からありましたが、対訳エディタのプルダウンメニューから選択して簡単に切り替えできるようになりました。複数のジャンルを訳す場合には特に便利な機能です。

■●ユーザー辞書ブラウザ

以前はユーザー辞書の登録情報を一覧したいときには一旦テキスト形式のユーザー辞書ソースに書き出す必要がありましたが、「ユーザー辞書ブラウザ」のおかげで辞書の内容が一目瞭然でメンテナンスがし易くなりました。

■●翻訳メモリ

もはや「翻訳メモリ」を持たない翻訳ソフトは業務用翻訳ソフトとは言えません。PC-Transer は他の翻訳ソフトに先駆けて、V6 で「翻訳メモリ」機能を搭載しました。

機械翻訳した可変部分を設定して翻訳メモリに登録し、「文型一致」する方法は翻訳ソフトならではの強力な機能です。

■●IE/ オフィスアドイン翻訳

Word、Excel、PowerPoint、Internet Explorer のレイアウトを保ったまま翻訳するアドイン機能は一見便利ですが、訳文を修正して仕上げる作業には使いにくい機能でした。今度のバージョンでは、翻訳エディタで設定した翻訳スタイルや翻訳メモリが反映されるようになったので、翻訳実務でも十分使えそうです。